

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 7 月 9 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870800301		
法人名	医療法人 緊愛会		
事業所名	グループホームいしかわ		
所在地	愛媛県四国中央市上分町861番地20 (電話) 0896-58-0065		
管理者	真鍋 みどり		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 6 月 5 日	評価確定日	平成 20 年 7 月 14 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 5 月 12 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15 人, 非常勤 人, 常勤換算 15 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	140 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 昼食代に含む 円
	または1日当たり 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 5 月 12 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 名	女性 18 名
要介護 1	1 名	要介護 2	6 名
要介護 3	5 名	要介護 4	6 名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 86.3 歳	最低 75 歳	最高 97 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間部に位置し、四季折々の自然を楽しむことができる。二階建ての建物で、ホームは二階に2ユニットが配置されている。一階には保育所があり、子どもたちと自由に交流できる。現在は利用者も職員も全員女性であり、和やかで落ち着いた雰囲気があり、いきいきとした表情や笑顔が印象的である。運営主体が医療機関であり、医療面での安心感がある。また、法人内に特別養護老人ホーム、ケアハウス、在宅支援の事業所などがあり、継続的、多面的に支えてもらえる安心感を持つことができる。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

ホームとしての改善計画書は作成していないが、自治会への参加の検討、近隣の事業者との連携、終末期に向けた方針の明確化などの課題について取り組んでいる。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

職員全員が自己評価を行っており、様々な気づきをケアの質の向上に役立てている。1年に1度の一過性のものとするのではなく、評価の意義を理解したうえで全員で取り組み、気づき、見直すことを続け、積極的に改善に向けて取り組んでいくことを期待する。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

定期的に取り組んでいる。内容は、ホームの行事などの報告が多い。参加者がやや少ない。地域のリーダーなど様々な立場の方々呼びかけてメンバーを再考し、幅広い意見を引き出し、具体的に運営に結び付けていくことが求められる。また、地域の理解と支援を得る機会となることが期待できる。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

月に1回以上来訪される家族がほとんどで、暮らしぶりについてはよく話すことができている。健康状態は主治医を受診する際に詳しく説明している。来訪の少ない家族には、電話をしたり、利用者と一緒に手紙を書いて知らせている。家族会や運営推進会議に参加して気兼ねなく意見を出してもらい、出された意見には応えられるよう検討して具体化している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

山の中腹という立地のため、周辺に民家はないが、地域の祭りや公民館事業には積極的に参加している。近くに札所の寺があり、お遍路さんの通り道にもなっているため、声をかけ合うなどして交流を図っている。また、ホームのある建物に保育所が併設されており、園児との交流も行っている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム いしかわ
 (ユニット名) かえで

記入者(管理者)
 氏名 真鍋 みどり

評価完了日 平成 20 年 5 月 12 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 私たちの理念は、1. 入居者様一人ひとりのペースに合わせるケアの提供 2. コミュニケーションを大切に、心穏やかに、笑顔で暮らせる環境づくり 3. 入居者様の意思を尊重して、自立の支援 という事業所独自の理念です。 (外部評価) 職員全員で意見を持ち寄り、独自の理念をつくっている。利用者のペースを大切にしながら、利用者同士、利用者職員、家族と職員、さらに地域とホームのコミュニケーションを図って笑顔で暮らせる環境をつくり、利用者が自立した生活を送れるよう支援していきたいという思いを込めた理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 各フロアーに理念を掲げて誰もが常時確認できるようにしている。毎日自己の介護を振り返り、理念を実践できているかどうか反省している。 (外部評価) 毎日の生活場面において常に理念を生かせるよう意識している。更に、ユニットごとに行っているミニカンファレンスで話し合い、確認し合っている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 玄関に理念を掲げているが、家族の方への説明は出来ていない。しかし、理念に沿った介護を実践している様子は、日々の暮らしの中で感じていただけている。	※	家族会やたよりなどを利用して、ご家族にも理念を理解していただくよう取り組みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 立地環境が悪いので、隣近所に住民はいない。ガスや水道の検針の人たちに声をかけて、入居者と一緒にお茶を飲んでもらっている。お遍路さんも近頃はバスやタクシーを利用するので、立ち寄る機会はほとんどなくなっている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 盆踊り大会や秋祭りには積極的に参加するように努力している。お寺参りや地域のお祭り、初詣などにも出来るだけ多く参加するように努めている。自治会や老人会へは参加していない。最近、公民館のパン作り教室へ参加して喜んでいただけた。 (外部評価) 山の中腹という立地で、周辺に民家はないが、地域の祭りや公民館事業には積極的に参加している。近くに札所の寺があり、お遍路さんの通り道にもなっているため、声をかけ合うなどして交流を図っている。また、ホームのある建物には保育所が併設されており、園児との交流も行っている。	※	地域の行事だけではなく、地域の活動で、参加できそうなものがあれば、ひとつからでも参加したいと思う。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 残念ながら現在はそこまでの活動は出来ていない。	※	運営推進会議や家族会の時に相談を持ちかけたり、職員会で検討したりして、考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を通して、自分たちに欠けていることは何かを自覚しているが、正直な意見として、日々の業務に追われている。毎月のフロアー会やケースカンファレンスでは業務改善に取り組んでいるが、評価を基準としてはいない。 (外部評価) 職員全員が自己評価を行うことで様々な気づきがあり、ケアの質の向上に役立っているが、評価に対する改善計画書の作成は行っていない。	※ ※	これまでは、評価が出た後の検討会を行ってこなかったので、次回からは改善すべき事項があれば話し合って改善したい。 年に1度の一過性のものとするのではなく、評価の意義を理解した上で全員で取り組み、気づき、見直し、改善計画書を作成して積極的に改善に取り組んでいくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、2ヶ月間の出来事を詳しく報告して、それに対するご意見を頂いている。サービス向上に繋がる意見というより、業務に対する労いの言葉や励ましの言葉を多くいただいている。		
			(外部評価) 定期的に取り組んでいるが、ホームの行事などの報告が多く、参加者も少ない。	※	地域のリーダーなど様々な立場の方に呼びかけてメンバーを再考し、幅広い意見を引き出し、具体的に運営に結び付けていくことが求められる。また、ホームに対する理解を広げ、支援を得る機会として活用することも期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 要介護認定の更新申請には窓口へ直接伺っているが、それ以外に接点はない。	※	運営上の悩みなどを相談するなど、関わる機会を設けるようにしたい。
			(外部評価) 各種申請や相談等を通して担当者とは顔馴染みになっており、相談できる関係を作っている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 19年度はそれについての勉強会を開催していない。以前には研修会に出向いていたが、対象者がいないこともあり、職員の意識も薄くなっている。	※	研修会などに参加して知識を深めておき、必要時活用できる体制でいたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者の虐待に関しては、職員の関心度も高く、研修会に参加して伝達講習会もしている。事業所内では虐待は行っていない！		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前には必ずご家族とご本人に来所していただき、グループホームを見学して、施設の形態や生活様式等を説明し理解していただく。場合によっては体験入居や日帰りでの体験などを行って、ゆっくり理解していただき、納得した上で同意を得ている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 病院受診は管理者同行なので、その間色々な話が出る。外出や散歩に出かけた時、職員にも不満等は話せるようになってきている。その時の内容から本心を知ることが出来る場合がある。また、「ふれあい相談員」が月1回来所して生の声を聞いてもらえる。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) ほとんどのご家族が1ヶ月に1回は面会があるので、その時に報告させていただいている。お小遣いを預かっている方に出納記録は毎月定期的に報告している。新しい職員が入職した場合は必ず紹介し、病院を受診した場合は記録に沿って詳しく説明している。 <hr/> (外部評価) 家族の訪問の際に、利用者の状況については十分報告している。金銭管理については、出納帳をつけ、月1回定期的に報告している。健康状態については、主治医を受診する際に詳しく説明している。訪問の少ない家族には、電話や、利用者と一緒に書いた手紙等によって報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に意見等を聞きだすよう努めている。玄関に苦情受付箱を設置しているが、今までに投書は見られない。年2回家族会を開催しており、直接話していただくほかに、満足度調査としてアンケートを実施したいと考えている。 <hr/> (外部評価) 家族会や運営推進会議に参加してもらい、家族から意見を出してもらうよう努めているが、実際に家族から意見が寄せられることはあまりない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回職員会を開催して全員の意見を出し合う機会を設けている。個々に面接する時間が取れないので、管理者はフロアーに出てさりげない会話にも聞き耳を立てている。建設的な意見には出来るだけ沿うように努力している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者が急変して受診する場合には、職員に超過勤務を依頼することがある。大きな行事を予定している時は、事前に話し合って休みの職員を少なくして確保に努めている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 法人内の異動は仕方ないが、新しい職員は自己紹介を兼ねて両方のフロアーを行き来している。離職の理由は様々であるが、引き止めることが良いこととも思えない。利用者にはその都度説明している。 (外部評価) 職員は全員常勤で、顔馴染みの関係が築きやすいよう配慮している。ユニット間の交流を多くもち、どちらの職員とも一緒に過ごす時間を大事にして、異動時にもダメージなく対応できるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 管理者は、各人の自主性や向上心を最大限に尊重し、決して強制はせず、研修会や講座案内等を基に実施している。職員は自分の能力に応じた研修内容を自分で選択して参加している。そのための勤務調整はいとわない。 (外部評価) 職員一人ひとりが資格を取れるよう、研修の受講を支援している。職員によっては外部研修への参加が難しいこともあるので、月1回は内部研修会を実施している。また、外部研修に参加した際には報告書を作成し、ミーティング等で報告して全員で共有できるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会に入会して、勉強会や研修会に積極的に参加し、他のグループホームの人たちと交流する機会を得ている。ただ、地域の同業者との交流は出来ていない。	※	市内にグループホームが多く出来たので、交流会を持って意見交換などしたいと思っていたが、実行には至っていない。市とも相談して前向きに取り組みたい。
			(外部評価) 近隣に10か所のグループホームがあり、交流しようと話し合っているが、管理者の個人的なお付き合い程度に留まっている。	※	同業者との交流を、管理者のみの交流に留まることなく、職員間の交流にまで広げ、相互に気づきあい、学び合ってサービスの向上につなげていくことを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職場を離れ、親睦会を定期的開催している。その場を利用してストレス発散している。また、現場を離れて研修会等に出かけ、他の事業所の人たちと交流することもストレス軽減になっている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 勤務年数に応じて様々な資格取得の機会があるので、紹介しながら支援している。運営者は資格に応じた手当を支給し、向上意欲を持たせている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 自宅から入居になる場合は見学や体験を行って、GHでの生活に適應できるかどうか判断している。病院や施設からの場合はそこに出向いて面会したり、情報収集に努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ご家族との面談は初期には特に重視している。どんなことにも丁寧に対応して、受け止めている。GHより通所サービスが向いている場合もあるので、他の事業所とも連絡を取り合っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 直ちに対処が必要な場合は、他の事業所やケアマネジャーと連絡を取り合っている。空きがないと入居出来ないので、説明して理解していただく。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 見学の際にレクに参加したり、おやつの中には一緒にお茶を飲んだり、楽しい雰囲気作りをしている。ケアマネジャーも何度か足を運んで下さり、情報交換して、ご家族も安心できるように支援している。 <hr/> (外部評価) 利用者及び家族にホームの見学や宿泊体験をしてもらうほか、家庭を訪問して生活ぶりを理解するよう努めている。また、ソーシャルワーカーから助言を受けながら、利用者と馴染みの関係をつくるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 洗濯物を干したりたたんだり、台所での仕事など、利用者が出来ることは手伝っていただく。また、山菜などの調理方法を尋ねたりしながら、楽しく調理している。何気ない会話の中から学ぶことも多い。 <hr/> (外部評価) 利用者から昔の保存食の作り方を教えてもらっている。職員のことを気にかけて、近所の「六地藏」に健康や幸せを祈ってくれる利用者もいる。子育ての悩みも話し、「子どもは叱るなよ」等のアドバイスももらっている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の折に利用者の近況や日々の暮らしぶりを伝えている。利用者、職員、家族の方一緒にレクレーションを楽しんだり、歌ったり、おやつを食べたりしながら、共に支えていくように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族に会いたい利用者の家族に対して連絡を取り、一緒に外出したり食事をする機会をつくっていただいている。家族との外出は喜んで送り出している。また、自分で字が書ける利用者には年賀状を書いて送っている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) これまで通っていた美容室を利用できるように、職員がお連れしたり、家族に依頼しておかけたりしている。お友達が面会に来てくれた時は、気兼ねなく話が出来るような環境を提供している。太鼓台を見る時は懐かしい地元へ出かけるようにしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) お茶の時間、会話やテレビで盛り上がる時、レクリエーションや歌を歌う時など居室にいる人も誘って、一緒に楽しむようにしている。孤立感を感じさせない努力をしている。利用者同士で会話を楽しめるように、畳ベンチを置いて環境設定も工夫している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 近くの施設へ入所した方のご家族からお手紙を頂いたり、亡くなった後もはがき等を出し合っている。入居中の写真を見つけた時は手紙を添えて思い出を分かち合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアカンファレンスは、職員全員で一人ひとりについて検討する時間としている。どんな思いで暮らしているのか、どんな望みを持っているのか、本当にやりたいことは何なのか・・・場合によっては直接本人に聞き出すこともある。 <hr/> (外部評価) センター方式を利用して一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、その人らしい生き方を探っている。毎日の言葉かけの中で思いを知ることもある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントシートをセンター方式に切り替えたこともあって、生活歴を大切にしようと努めている。家族や友人に協力していただきながら、その把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個性を大切にして、自己決定権を重視しているので、一人ひとり違った生活スタイルを尊重している。その中で、出来ること、出来ないことを見極めながら、残存能力に見合ったことを探している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプランはセンター方式を取り入れて、職員全員で検討しながら作成している。必要な情報が得られない場合はご家族や知人に聞きながら進めている。利用者本人にも話を十分聞いて、利用者本位のプランにするよう努めている。 <hr/> (外部評価) どのような生活を望んでいるのか、その生活を支えるには何が大切か、などについて担当者を中心に職員それぞれが意見を出し合い、家族とも話し合って介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) モニタリングは基本的に半年に1回行っているが、それ以前に変化（入院や体調の変化等）があった場合はその都度見直しをかけて、新しいプランを作成している。 <hr/> (外部評価) 担当者が、毎日の記録から評価して素案をつくり、月1回のカンファレンス時に職員全員で気づきを出し合って見直している。見直し時には必ず家族に目を通してもらい、意見を盛り込んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日々の記録は、個人の処遇記録に記載して情報を共有している。ケアの気づきや工夫などは申し送りノートを活用して共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 家族が忙しくて面会や受診に対応出来ないときは、職員が付き添って受診したり、気分転換にドライブや買い物に出かけたりしている。面会時間を制限しないで、いつでも会える環境にしている。 (外部評価) 協力医療機関への受診、自宅への立ち寄り等、利用者の希望にそえるよう個別に支援している。また、併設された保育所の子どもの交流も行うなど、生きがいつくりの支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 月2回の音楽ボランティアの来所を楽しみにしている。紙産業会館へ見学に行ったり、保育所の子供たちと定期的に交流を持っている。消防訓練を年2回実施している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 入居中に他のサービスを利用することはないし、これまで必要性を感じていない。利用料も発生し、家族に負担をかけることになる。ただ、GHを出て家で生活する方に対してはケアマネジャーやサービス事業者と話し合っており、支援してきた。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 昨年からのグループホーム運営推進会議に参加して下さっているが、それ以上の関係はなく、協働作業はない。	※	

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 基本的に主治医は母体病院になっているが、本人や家族の意向も大切にしており、これまで掛かっていた病院へも通っている。眼科・歯科・耳鼻科等は特に家族が納得する病院を選んで受診している。 (外部評価) 利用者と過ごす機会を確保できるよう、かかりつけ医受診はできるだけ家族にお願いしている。その際には健康に関する情報や生活の状況を詳しく伝えている。また、主治医には健康チェック表などを見てもらうようにしている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症の専門医は母体病院にはいないため、必要時、病院から専門医が居る病院を紹介したり、入居前から掛かっている方は引き続き通院してもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師が2名配置されており、常時利用者の健康管理を行っている。また必要時受診の手続き、受診介助を行っている。夜間でも急変時には連絡を取り、対応している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した時は、出来るだけ病院に足を運び、その状態を把握して退院に向けて病院の看護師や医師と相談している。退院後の生活に対しても十分カンファレンスしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 明らかに家族から希望が出ている方が半数程度いて、職員全員で理解している。 (外部評価) 運営法人は病院、老人保健施設、特別養護老人ホーム等をもっており、重度化した場合や終末期には法人内施設での受け入れ・対応が可能となっており、その旨家族に説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 日々変化していく利用者に関しては、毎日のミニカンファレンスの中で話し合っており、出来ることやしてあげたいことなどを話し合っている。高齢(97歳)の方には、今後自分のスタイルでマイペースで生きて欲しいと願っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 自宅へ帰る際にはケアマネジャーやサービス事業者に対し、個別的な情報を提供している。施設へ移る際にも情報提供書を作成したり、直接施設の職員と話し合う機会を設けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) その人に合った言葉かけを心がけている。特にトイレ誘導に関しては、居室以外の場所では、さりげなく誘うようにしている。個人情報保護についても徹底できている。 (外部評価) 記録等の個人情報は適切に管理している。トイレ誘導などの声かけも、尊厳を損なわないよう配慮している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 普段の会話からさりげなく思いや希望を聞きだして、誕生日には好きなメニューを作ったり、行きたい場所へドライブしたりしている。また、今日のお茶は何が欲しいかなどを聞いて、自己決定を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 理念にも掲げているが、一人ひとりのペースに合わせるケアの提供を心がけている。管理者は自己決定を重視しているため、希望に沿った生活支援をしている。 (外部評価) このホームに入居して良かったと思えるよう、個人的に希望や本音を聞き出すよう努力している。職員が常に笑顔で、本気で利用者のことを考えていることが伝わってくる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 季節感がない服装をしているときはさりげなく注意するが、ほとんどは大目にみている。美容室は本人の望む場所へお連れしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 「今日は何が食べたいですか？」と尋ねたり、「今日のメニューは○○だから、手伝ってください。」と声をかけて、一緒に準備や食事、片付けを行っている。 (外部評価) オープンダイニングでどこからも見渡すことができる。食事の下ごしらえや配膳、片付けなど利用者も職員と一緒に動いている。食事中は、食材や卓上の花について等、豊富な話題で会話を楽しんでいる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 残念ながらお酒は出していないが、軽い梅酒や果実酒、おやつや飲み物などは好みに合わせて出せるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 「排泄チェック表」で排泄パターンを把握して誘導している。夜間も声かけしてトイレ誘導するようにしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 希望通りに入浴させてあげたらいいと思うが、今のところは職員側の都合で決めさせてもらっている。これは今後の課題だと思っています。 (外部評価) 入浴剤入りのお風呂を温泉に見立てて声かけを行うなど、様々な工夫をすることで、利用者は入浴を楽しんでいる。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 眠れない時に無理強いすることなく、温かい飲み物や軽いお菓子やおにぎりなどを食べてもらったり、しばらく会話して、入眠しやすい環境をつくっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 個々の生活歴や職業、趣味などを活かした料理や作業をしていただくことで、個々の力を発揮できる場面を作っている。感謝の言葉かけを忘れないようにしている。 (外部評価) 家事、梅干やらっきょう作り等を楽しんでいる。近所への散歩や六地藏へのお参りができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員と一緒に買い物に行くときは、自分が買いたいものを選べる支援をし、自分で会計が出来るように見守っている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 体調や天候を考慮し、出来るだけ戸外に出る機会を増やしている。どこに行きたいか利用者の希望に沿うようにしているが、バラ園や菜の花畑、お花見などは喜んでくださる。 (外部評価) パンを買いに出かけることがよくある。数人ずつスーパーに買い物にも出かけている。ホーム近くで、春はつくしをとり、秋には栗拾いを楽しんでいる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) たまには家で過ごしたいと思う利用者に対しては、家族に協力していただいて、1日家で過ごせるように支援している。また、家族で温泉に行く利用者さんには、快適に過ごせるように情報提供している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は自由であるが、相手の都合を考えて時間帯を選んでいる。手紙が届けば渡したり、読んであげたりしている。年賀状は出来るだけ自筆で書くように支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間を制限することなく、いつでも誰でも来てもらえるようにしている。ゆっくり話が出来るような空間を設けて、お茶を出して訪問に感謝する気持ちを表している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていないが、危険回避のために一時的な拘束（そばについて見守るなど）はやむをえないと思う。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中、鍵はかけない。夜間は防犯のため玄関が自動ロックされるが、チャイムが鳴れば開錠できるようになっている。 (外部評価) 居室はほとんどの利用者が開放した状態である。玄関は午後8時から朝6時までは安全面に配慮して施錠しているが、昼間は自由に出入りできるようになっている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 昼間は職員が3名居るので、利用者の所在を把握できる。夜間は1時間ごとに巡回して安全確認を行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) フロア内に歩行の邪魔になるものは置かない。テーブルやソファの配置もシルバーカーや車椅子に対応している。洗剤等異食行為に繋がるものは鍵をかけて保管している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) リスクに関する勉強会は積極的に行っている。職員会で学習会を開催したり、研修会に参加して知識を学んでいる。日々の取り組みとしては、ヒヤリハットの記録を通してケースに応じた対応策を検討している。転倒については転倒リスク評価尺度を用いて予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 高齢者介護『緊急時対応マニュアル』を購入して全職員が知識を学んでいる。定期的な訓練は出来ていないが、伝達講習会などを利用して学ぶ機会はある。	※	救急処置は知っているだけでは実用的ではないので、忘れないように実践訓練が必要であると思う。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練は年2回実施している。その際に消防隊の方から地震について話があり、地震がおさまってから行動すればいいと教えていただきました。 (外部評価) 定期的に年2回の避難訓練を実施しており、昼夜両方を想定した訓練も行っている。隣りの施設にも協力を要請し、訓練に参加してもらっている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居する時に、管理者から家族に対してリスクについては十分説明させてもらっている。職員は出来るだけのこととはするが、不可抗力もあり得ることを納得してもらってから契約している。入居後も職員間で話し合ってリスクの軽減に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 利用者の顔色や表情の変化、いつもと違う言動、バイタルサインのチェックなどを通して異常の早期発見に努めている。毎日の申し送りや朝礼で報告しあって情報を共有している。看護師や管理者に報告して受診等対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬局から配布される薬剤情報を見て、作用・副作用・用法・容量など薬の知識を得ている。きちんと服薬しているかどうか毎回チェックしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便がきちんとあったかどうかは大変大事なことであり、職員全員が理解できているため、予防や取り組みも出来ている。食材の工夫や水分摂取量の把握、体操や散歩などを行っている。それでも便秘になることがあり、センナ茶や薬に頼ることもある。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食前に緑茶でうがいをして、食後には必ず歯磨き・うがいを実施している。自力で出来ない利用者には職員が付き添ってケアしている。義歯の消毒、歯ブラシ・コップの消毒も行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分摂取量、食事摂取量が一覧表になっており、一人ひとりの状態が把握できるので、不足分を補う支援ができる。水分は好きなものが摂れるように希望を聞き、少ない方にはミルク寒天など工夫している。 (外部評価) 運営法人の病院の管理栄養士が献立表を作成し、それに添った材料が届けられる体制となっている。水分量などについては定期的に医師がチェックしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 入居前に健康診断を受けてもらい、感染症の有無を確認している。入居してからは、トイレは塩素系で掃除をしたり、食前の緑茶うがい、手洗いの励行、予防接種などで取り組んでいる。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理用品は毎日消毒している。まな板は野菜用と肉・魚用に分けて使用している。毎日、冷蔵庫内の温度チェックを行い、食品は配達された時点で温度チェックしている。調理したものは中心温度計で温度を測り、検査食として2週間保管している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 建物の仕様上玄関がわかり難いこともあり、手作りの看板を掛けてアピールしている。季節ごとの花を植えて家らしさが出る工夫もしている。GHの玄関には靴脱ぎ用の椅子を設置して、子供さんや高齢者の方が安全に出入りする工夫をしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 室内には観葉植物や季節ごとの花を活け、中庭には小鳥の巣箱があり、自然の中で季節感を味わいながら生活している。浴室はいつも清潔に保ち、トイレには消臭剤を置き、汚れたらすぐ掃除している。照明の程度やテレビの音量なども状況をみて調節している。 (外部評価) 全体的に広々としており、あちこちにくつろげるコーナーを設け、開放的で気持ちが良い。浴室やトイレは家庭的で清潔に保たれている。廊下をはじめ適切な場所に手摺りが付けられており、安全面での配慮もある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファやベンチを随所に置いて、友達同士で話し合う空間を確保している。一人でも好きな場所で過ごしてもらえる。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族と相談して、出来るだけ使い慣れたものを持ってきている。入居が長くなった利用者は、自分の好みで棚などを購入している。全員の部屋に家族の写真を飾るようにしている。 (外部評価) 馴染みの家具やテレビ、写真、ポスター、愛用品等が持ち込まれており、利用者それぞれの生活ぶりがうかがえる。入り口には木製の表札がかかっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎日、室温と湿度を計測しており、状況に応じて空調の調節をしている。冬期は加湿器や濡れタオルを利用して乾燥予防している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 随所に手すりを設置して安全に移動できるよう配慮している。浴室やトイレの中も手すりがあればかなり安全は確保できるし、自立した生活が送れる。手押し車や車椅子を利用する方が増えたので安全に移動できる空間も確保している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 全ての利用者は字が読めるので、自室、トイレや洗面所は表示してわかりやすくしている。また、説明すればわかってもらえるので、これまでの生活習慣から、出来ることは自分でやってもらうようにしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 2階であるため、ベランダはリスクが多く活動の場として提供していない。中庭や外回りは花や野菜作りで楽しめるし、外は保育所の子供たちと過ごしたり散歩の場所となっている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらい 評価) 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんど掴んでいない	ケアプランのアセスメントシートをセンター方式に替えたので、その情報収集の際、利用者の生活歴や趣味などを知ることが出来た。利用者がどんな思いで生活したいと思っているのか理解する良い機会になった。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	10時と15時にお茶の時間を設けているが、その時は職員と利用者が同じテーブルで話をしながら、和やかに過ごしている。食事時も、食べたらずぐに立つのではなく、しばらく話をしてお過ごそうとしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	みんなと合わせられる方が少ない。一人ひとり思い思いに行動しているし、起床時間や就寝時間もバラバラである。その人のペースに合わせたケアを提供している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個人的に関わることで表情は明るくなる。寂しさを表現できない方には特に優しく接するようにしている。しかし、職員がいくら頑張っても、家族の愛情に勝てるものはないと感じている。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	戸外へ出かけることは大きなリスクが生じるし、戸外において自力歩行できる利用者が1/3しかない現状である。また、行きたい場所が行ける場所とは限らないので、希望通りの場所へ出かける努力をしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	グループホーム内に看護師が勤務しており、経営母体が病院ということで、日常の健康管理は言うまでも無く、体調不良の場合はすぐに受診が出来る体制にある。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	急変時には近くの施設から応援があるし、状況によって病院受診できるようになっている。職員が手薄になる時は隣のフロアに応援を依頼したり、休みの職員に手伝ってもらうことも出来るので、利用者は安心して生活できる。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時に時間を割いて家族とコミュニケーションをとるようにしている。話の中から色々なことを聞き出して、家族の思いを理解している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	近隣に民家がないので、地域の人たちが訪ねて来ることは滅多にない。その代わりに、ケアマネジャーやボランティアの方たち、ふれあい相談員さんが来てくれる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	回数を重ねる毎に、グループホームを理解してもらえた手ごたえを感じているが、地元の方との関係が深まったとは言えない。しかし、私たちの姿勢は伝わっているようで、地域の行事などに誘っていただくことがある。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	業務改善を進めながら、働きやすい職場作りを目指している。管理者は、職員からの建設的な意見は出来るだけ取り入れようとしているし、人間関係が円滑になるような支援をしている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	本当の満足とはどうなることなのか疑問であるが、日々の暮らしや表情を見てみると、大きな不満を感じているとは思えない。しかし、常に不安を抱えて暮らしている方も居るので、全員に満足を与えてあげることはいできない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族にとってグループホームは最後の手段ともいべき場所であると思う。家族の介護では限界を感じて入居を決めているので、ここに居てくれる間は、安心して自分たちの暮らしを続けられる。介護サービスに対しても苦情などなく、面会時の会話などからも満足感が伝わる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

「グループホームいしかわ」の特徴は、1番に、階下に保育所があって定期的に交流会を開催していることです。子供が嫌いなお年よりはいないし、子供たちの素直な明るい笑顔で、ここの利用者様は本当に癒されています。近隣に民家やスーパーなどがなく、静か過ぎる環境の中で、こどもの声が響くことは本当にうれしいものです。特徴2番めとして、職員の明るさです。業務はつらい事やきついこともあります、いつも明るく、笑顔で仕事をしています。訪問者からも笑顔を誉めていただいています。それが利用者様にも伝播して、毎日楽しく暮らしています。3番目として、この建物の広さと明るさを挙げたいと思います。家族会では、1フロアだけで、利用者と家族、職員合わせて40名以上になりますが、余裕を持って受け入れることが出来る広さです。音楽ボランティアの方が来る時は、他の事業所の利用者も受け入れて、大勢で楽しんでいます。広くて、ゆったりした空間があって、3方がガラス張りのため明るくて、快適な住まいとなっています。歩行練習や車椅子、シルバーカーにも対応出来ます。更に、母体病院との連携がうまくいっていることも重要なポイントになっています。管理者は自己決定を重視しているのも、やりたい時にやりたいことを出来る支援を心がけています。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム いしかわ

(ユニット名) もみじ

記入者(管理者)
氏名 真鍋 みどり

評価完了日 平成 20 年 5 月 12 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 私たちの理念は、1. 入居者様一人ひとりのペースに合わせるケアの提供 2. コミュニケーションを大切にしてい、心穏やかに、笑顔で暮らせる環境づくり 3. 入居者様の意見を尊重して、自立の支援 という事業所独自の理念です。 (外部評価) 職員全員で意見を持ち寄り、独自の理念をつくっている。利用者のペースを大切にしながら、利用者同士、利用者職員と職員、家族と職員、さらに地域とホームのコミュニケーションを図って笑顔で暮らせる環境をつくり、利用者が自立した生活を送れるよう支援していきたいという思いを込めた理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 玄関とフロアーに理念を掲げて誰もが常時確認できるようにしている。毎日自己の介護を振り返り、理念を実践できているかどうか反省している。 (外部評価) 毎日の生活場面において常に理念を生かせるよう意識している。更に、ユニットごとに開いているミニカンファレンスで話し合い、確認し合っている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 玄関に理念を掲げているが、家族の方への説明は出来ていない。しかし、理念に沿った介護を実践している様子は、日々の暮らしの中で感じていただけたらと思う。	※	地域や家族の方に理解してもらえるように、家族会やたよりなどを活用したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 立地環境が悪いので、隣近所に住民はいない。お遍路さんの通り道なので、時期になると見かけることもあるが、最近ではバスやタクシーを利用するので、立ち寄ってもらう機会はほとんどない。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 盆踊り大会や秋祭りには積極的に参加するように努力している。お寺参りを好む方が多いので、天気が良ければ出かけるようにしている。ただ、自治会や老人会へ出向くには至っていない。 (外部評価) 山の中腹という立地で、周辺に民家はないが、地域の祭りや公民館事業には積極的に参加している。近くに札所の寺があり、お遍路さんの通り道にもなっているため、声をかけ合うなどして交流を図っている。また、ホームのある建物には保育所が併設されており、園児との交流も行っている。	※	地域の行事に参加するだけでなく、地域活動の中で参加しやすいものがあれば参加したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 残念ながら現在はそこまでの活動は出来ていない。	※	運営推進会議や家族会の機会に相談してみたり、職員会で検討したりしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を通して、自分たちに何が欠けているかを自覚できる。良い評価を受けるために業務改善に取り組むのではなく、利用者様の生活の質を上げるための取り組みであると思う。それが評価に繋がればいいのではないのでしょうか。 (外部評価) 職員全員が自己評価を行うことで様々な気づきがあり、ケアの質の向上に役立っているが、評価に対する改善計画書の作成は行っていない。	※ ※	これまでの、評価が出た後の検討会を行ってこなかったもので、次回からは改善すべき項目があれば積極的に取り組みたい。 年に1度の一過性のものとするのではなく、評価の意義を理解した上で全員で取り組み、気づき、見直し、改善計画書を作成して積極的に改善に取り組んでいくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、2ヶ月間の出来事を詳しく報告して、それに対するご意見を頂いている。サービス向上に繋がる意見というより、業務に対する労いの言葉や励ましの言葉を多くいただいている。 (外部評価) 定期的に取り組んでいるが、ホームの行事などの報告が多く、参加者も少ない。	※	地域のリーダーなど様々な立場の方に呼びかけてメンバーを再考し、幅広い意見を引き出し、具体的に運営に結び付けていくことが求められる。また、ホームに対する理解を広げ、支援を得る機会として活用することも期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 要介護認定の更新申請には窓口へ直接伺っているが、それ以外に接点は無い。 (外部評価) 各種申請や相談等を通して担当者とは顔馴染みになっており、相談できる関係を作っている。	※	運営上の悩みを相談するなどして、関わりを持ちたいと考えています。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 19年度は権利擁護に対する勉強会は開催していないが、昨年の家族会の折に、市内の擁護委員の方が参加してくださり、法務局の方に成年後見制度について講和を頂きました。現在対象者がいないこともあって、職員の意識が希薄になっていると感じる。	※	研修会などに参加して知識を深めておき、必要時活用できる体制でいたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者の虐待に関しては、職員の関心度も高く、研修会に参加して所内で伝達講習会もしている。事業所内では虐待は行っていない！		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前には必ずご家族とご本人に在所していただき、グループホームを見学して、施設の形態や生活様式等を説明し理解していただく。場合によっては体験入居や日帰りでの体験などを行って、ゆっくり理解していただき、納得した上で同意を得ている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 病院受診は基本的に管理者が同行しているし、職員と一緒に外出や買い物、散歩などに出かけた時に話が出る。意見や不満を口にする機会が多く設けている。また、「ふれあい相談員」が月1回来所して生の声を聞いて職員に伝えてくれるようになっている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 最低でも月に1回は面会があり、毎日何回も面会がある方もいるので、随時報告している。職員だけでは対応出来ないときは電話を掛けて面会に来ていただくこともある。金銭管理については、定期的に出納記録を送付している。 ----- (外部評価) 家族の訪問の際に、利用者の状況については十分報告している。金銭管理については、出納帳をつけ、月1回定期的に報告している。健康状態については、主治医を受診する際に詳しく説明している。訪問の少ない家族には、電話や、利用者と一緒に書いた手紙等によって報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に一緒にお茶を飲みながら、意見等を聞きだすようにしている。年2回の家族会を利用して幅広く意見を聞く努力もしている。直接口に来れないこともあるかもしれないので、満足度調査としてアンケートの実施を考えている。 ----- (外部評価) 家族会や運営推進会議に参加してもらい、家族から意見を出してもらうよう努めているが、実際に家族から意見が寄せられることはあまりない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回職員会を開催して全員の意見を出し合う機会を設けている。個々の職員に面接する時間が取れないので、管理者はフロアーでの何気ない会話にも注意深く耳を傾けている。建設的な意見には出来るだけ沿うように努力している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 大きな行事を計画している時は事前に話し合っで職員数を確保したり、超過勤務を依頼している。利用者が急変した場合には、状況に応じて勤務変更することもある。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 法人内の異動は関与できないが、新規職員は自己紹介を兼ねて、両方のフロアーを行き来している。離職は少ないが止むを得ない理由であり、利用者にはその都度きちんと説明している。 (外部評価) 職員は全員常勤で、顔馴染みの関係が築きやすいよう配慮している。ユニット間の交流を多くもち、どちらの職員とも一緒に過ごす時間を大事にして、異動時にもダメージなく対応できるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 管理者は、各人の自主性や向上心を最大限に尊重し、決して強制はせず、研修会や講座案内等を基に実施している。職員は自分の能力に応じた研修内容を自分で選択して参加している。そのための勤務調整はいとわない。 (外部評価) 職員一人ひとりが資格を取れるよう、研修の受講を支援している。職員によっては外部研修への参加が難しいこともあるので、月1回は内部研修会を実施している。また、外部研修に参加した際には報告書を作成し、ミーティング等で報告して全員で共有できるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会に入会して、勉強会や研修会に積極的に参加し、他のグループホームの人たちと交流する機会を得ている。ただ、地域の同業者との交流は出来ていない。	※	市内にグループホームが多く出来たので、交流会を持って意見交換などしたいと思っていたが、実行には至っていない。市とも相談して前向きに取り組みたい。
			(外部評価) 近隣に10か所のグループホームがあり、交流しようと話し合っているが、管理者の個人的なお付き合い程度に留まっている。	※	同業者との交流を、管理者のみの交流に留まることなく、職員間の交流にまで広げ、相互に気づきあい、学び合ってサービスの向上につなげていくことを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 半期に一度現場を離れて、親睦会を開催して、悩み等を聞く機会を設けているし、話すことで、ストレス発散できている。また、研修会等に出かけることもストレスの軽減になっている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 勤務年数に応じて様々な資格取得の機会があるので、紹介しながら支援している。運営者は資格に応じた手当を支給し、向上意欲をもたせている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 自宅から入居になる場合は見学や体験を行って、GHでの生活に適應できるかどうか判断している。病院や施設からの場合はそこに出向いて面会したり、情報収集に努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ご家族の面談は初期には重視している。どんなことにも丁寧に対応して、受け止めている。GHより通所系のサービスが向いている場合もあるので、他の事業所とも連絡を取り合っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 直ちに対処が必要な場合は、他の事業所やケアマネジャーと連絡を取り合っている。空きがないと入居できないので、説明して理解していただく。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 見学の際にレクに参加したり、おやつの中には一緒にお茶を飲んだり、楽しい雰囲気作りをしている。ケアマネジャーも何度か足を運んでくださり、情報交換して、ご家族も安心できるように支援している。 (外部評価) 利用者及び家族にホームの見学や宿泊体験をしてもらうほか、家庭を訪問して生活ぶりを理解するよう努めている。また、ソーシャルワーカーから助言を受けながら、利用者と馴染みの関係をつくるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 「入居者様は人生の先輩である。」という思いを忘れてないで接している。調理方法などを尋ねたり、得意なことを披露していただいたりしながら、楽しく過ごしている。何気ない会話の中から学ぶことも多い。 (外部評価) 利用者から昔の保存食の作り方を教えてもらっている。職員のことを気にかけて、近所の「六地藏」に健康や幸せを祈ってくれる利用者もいる。子育ての悩みも話し、「子どもは叱るなよ」等のアドバイスももらっている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時に近況報告したり、一緒にお茶を飲みながら会話したり、レクを楽しんだりしながら、共に支えていく姿勢を示している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族に会いたいと言われる利用者のために、家族に電話して面会や外出をお願いすることがある。家族の意向も大切にしつつ、利用者の要望も叶えたいと思うと、これまでの関係が影響するため、難しいときもある。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行きつけの美容院を利用したり、これまでの馴染みの関係を継続させている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) こたつ・畳ベンチ・ソファを置き、みんなで過ごせる場所や、個々にゆっくりくつろげる場所を設けている。体操やレクリエーションの時間は居室に居る方も誘い出して、孤立しない工夫をしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 入院や施設入所した方にお見舞いや面会に出向いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアカンファレンスは、職員全員で一人ひとりについて検討する時間としている。どんな思いで暮らしているのか、どんな望みを持っているのか、本当にやりたいことは何なのか・・・場合によっては直接本人に聞き出すこともある。 (外部評価) センター方式を利用して一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、その人らしい生き方を探っている。毎日の言葉かけの中で思いを知ることもある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族の方や以前サービスを利用していた事業所の担当者、ケアマネジャーから聞き取りして把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個性を大切にして、自己決定権を重視している。一人で一人ひとり違った生活スタイルを尊重している。その中で、出来ること、出来ないことを見極めながら、残存能力に見合ったことを探している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプランはセンター方式を取り入れて、職員全員で検討しながら作成している。必要な情報が得られない場合はご家族や知人に聞きながら進めている。利用者本人からも話を聞いて、利用者本位のプランになるよう努めている。 (外部評価) どのような生活を望んでいるのか、その生活を支えるには何が大切か、などについて担当者を中心に職員それぞれが意見を出し合い、家族とも話し合っって介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) モニタリングは基本的に半年に1回行っているが、それ以前に変化（入院や体調の変化）があった場合はその都度見直しをかけて、新しいプランを作成している。 (外部評価) 担当者が、毎日の記録から評価して素案をつくり、月1回のカンファレンス時に職員全員で気づきを出し合っって見直している。見直し時には必ず家族に目を通してもらい、意見を盛り込んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日々の記録は、個人の処遇記録に記載して情報を共有している。ケアの気づきや工夫などは申し送りノートを活用して共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 家族が忙しくて面会や受診に対応出来ないときは、職員が付き添って受診したり、気分転換にドライブや買い物に出かけたりしている。面会時間を制限しないで、いつでも会える環境にしている。 (外部評価) 協力医療機関への受診、自宅への立ち寄り等、利用者の希望にそえるよう個別に支援している。また、併設された保育所の子どもの交流も行うなど、生きがいがづくりの支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 月2回の音楽ボランティアの来所を楽しみにしている。紙産業会館やふるさと館へ見学に行ったり、保育所の子供たちと定期的に交流を持っている。消防訓練を年2回実施している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 入居中に他のサービスを利用することは無い。利用料が実費になり家族に負担を掛けることになる。グループホームを出て自宅で生活する方に対してはケアマネジャーやサービス事業者と話し合って支援してきた。	※	
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 昨年からグループホーム運営推進会議に参加して下さっているが、それ以上の関係はなく、協働作業はない。	※	

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 基本的に主治医は母体病院になっているが、本人や家族の意向も大切にしており、これまで掛かっていた病院へも通っている。眼科・歯科・耳鼻科等は特に家族が納得する病院を受診している。 (外部評価) 利用者と過ごす機会を確保できるよう、かかりつけ医受診はできるだけ家族にお願いしている。その際には健康に関する情報や生活の状況を詳しく伝えている。また、主治医には健康チェック表などを見てもらおうようにしている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症の専門医は母体病院には不在なので、必要時病院から紹介したり、入居前から掛かっている方は引き続き通院してもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 管理者が看護師であり、常時利用者の健康管理を行っている。また必要時受診の手続き、受診介助を行っている。夜間でも急変時には連絡を取り、対応している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した時は、出来るだけ病院に足を運び、その状態を把握して退院に向けて病院の看護師や医師と相談している。退院後の生活に対しても十分カンファレンスしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 終末期について決めている方は現在いない。高齢になっているので、そろそろ考えていくべきである。 (外部評価) 運営法人は病院、老人保健施設、特別養護老人ホーム等をもっており、重度化した場合や終末期には法人内施設での受け入れ・対応が可能となっており、その旨家族に説明している。	※	

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度もしくは終末期を迎える利用者がいないため、具体的な取組みは行っていない。日々変化する方については、毎日のミニカンファレンスで話し合っており、今出来ることを検討している。	※	
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 最近の傾向としては施設へ移行する方が多い。情報提供書を作成したり、直接施設の職員と話し合ったりしてダメージを軽減するよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 平成20年度のプロアールの目標を「入居者様に対する言葉遣いに注意する。」と掲げており、注意事項を職員間で徹底している。 (外部評価) 記録等の個人情報は適切に管理している。トイレ誘導などの声かけも、尊厳を損なわないよう配慮している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 誕生日の献立や朝食を和食か洋食かなど、自己決定の場面を増やして、利用者の希望を取り入れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 理念にも掲げているが、一人ひとりのペースに合わせるケアの提供を心がけている。管理者は自己決定を重視しているため、希望に沿った生活支援をしている。 (外部評価) このホームに入居して良かったと思えるよう、個人的に希望や本音を聞き出すよう努力している。職員が常に笑顔で、本気で利用者のことを考えていることが伝わってくる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 個々の好みや習慣を大切に、身だしなみやおしゃれが出来るようにしている。本人が以前から利用している馴染みの美容室を利用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 経験豊かな利用者様に相談して、一緒に調理したり、楽しい食事になるような盛り付けをし、片づけも一緒に行って、食事を楽しむ雰囲気作りをしている。 (外部評価) オープンダイニングでどこからも見渡すことができる。食事の下ごしらえや配膳、片付けなど利用者も職員と一緒に動いている。食事中は、食材や卓上の花について等、豊富な話題で会話を楽しんでいる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の好みの飲み物やおやつを出すようにしているが、糖尿病の方や肥満気味の方があるので、カロリーを抑えたおやつになる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 「排泄チェック表」で個々の排泄パターンを把握している。失禁しても出来るだけオムツを使わない方針で、夜間もトイレ誘導の声かけをしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 本人の希望や体調に合わせて、いつでも入浴できるように対応している。 (外部評価) 入浴剤入りのお風呂を温泉に見立てて声かけを行うなど、様々な工夫をすることで、利用者は入浴を楽しんでいる。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個々のペースに合わせて自由に休息したり、どこで寝てもいいように場所の提供と雰囲気作りをしている。ベッドが苦手な方には布団で、コタツが落ち着くという方にはコタツで寝てもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 個々の生活歴や職業、趣味などを活かした料理や作業をしていただくことで、個々の力を発揮できる場面を作っている。感謝の言葉かけを忘れないようにしている。 (外部評価) 家事、梅干やらっきょう作り等を楽しんでいる。近所への散歩や六地藏へのお参りができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族からお小遣いを預かり、外出した時や移動パン屋さんが来た時に買い物ができるようにしている。会計のときは見守りをしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 体調や天候を考慮して、出来るだけ戸外へ出る機会を増やしている。行きたい場所を聞いて希望に沿うようにしているが、バラ園やお花見などは喜んでくださる。 (外部評価) パンを買いに出かけることがよくある。数人ずつスーパーに買い物にも出かけている。ホーム近くで、春はつくしをとり、秋には栗拾いを楽しんでいる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 毎日お墓参りに出かけていた方が、入居後も行きたいというので、職員や家族で協力して出かけていた。その他、職員が喫茶店やスーパー等へ連れて行ってあげるようにしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 主に相手から（息子や娘）電話が掛かっている。手紙まではいかないが、年賀状は毎年自筆で書いて出している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族の面会時間は制限しないで自由になっている。仕事帰りや家族の都合のいい時間に来ていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員会で話し合ったり、ニュースなどで問題になっている事については朝礼で話し合ったりして、意識を高めている。危険回避のために一時的に見守り強化することはあるが、身体拘束はしない。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は誰でも自由に入出りできるようにしている。夜間は防犯のために玄関が自動ロックされるが、チャイムが鳴れば開錠している。 (外部評価) 居室はほとんどの利用者が開放した状態である。玄関は午後8時から朝6時までは安全面に配慮して施錠しているが、昼間は自由に入出りできるようになっている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 昼間は職員が3名勤務しているので、利用者の所在を把握できる。夜間は1時間ごとに巡回して安全確認を行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) フロア内に歩行の邪魔になる物を置かない。シルバーカーや車椅子利用者が多いので、通路の確保が必要。異食行為の方がいるので、危険回避のため洗剤等は鍵のかかる場所へ保管している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) リスクに関する勉強会は積極的に行っている。職員会で学習会を開催したり、研修会に参加して知識を学んでいる。日々の取り組みとしては、ヒヤリハットの記録を通してケースに応じた対応策を検討している。転倒については「転倒リスク評価尺度」を用いて予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 高齢者介護『急変時対応マニュアル』を購入して全職員が知識を学んでいる。定期的な訓練は出来ていないが、伝達講習会などを利用して学ぶ機会はある。	※	救急処置は知っているだけでは実用的ではないので、忘れないように実践訓練が必要であると思うので、病院や消防などで訓練があるときは積極的に参加したい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練は年2回実施している。その際に消防隊の方から地震について話があり、地震がおさまってから行動すればいいと教えていただきました。 (外部評価) 定期的に年2回の避難訓練を実施しており、昼夜両方を想定した訓練も行っている。隣りの施設にも協力を要請し、訓練に参加してもらっている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居する時に、管理者から家族に対してリスクについては十分説明させてもらっている。職員は出来るだけのことはするが、不可抗力もあり得ることを納得してもらってから契約している。入居後も職員間で話し合っってリスクの軽減に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 利用者の顔色や表情の変化、いつもと違う言動、バイタルサインのチェックなどを通して異常の早期発見に努めている。毎日の申し送りや朝礼で報告し合っって情報を共有している。看護師や管理者に報告して受診するなど対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬局から配布される薬剤情報を見て、作用・副作用・用法・容量など薬の知識を得ている。きちんと服薬しているかどうか毎回チェックしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便がきちんとあったかどうかは大変大事なことであり、全職員が理解しているため、予防や取り組みも出来ている。食材の工夫や水分摂取量の把握、体操や散歩などを行っている。それでも便秘になるときはセンナ茶や薬を使用する。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食前うがいを励行している。食後は必ず歯磨き、うがいを実施している。自力で出来ない利用者には職員が付き添ってケアしている。義歯の消毒、歯ブラシ・コップの消毒も行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分摂取量、食事摂取量が一覧表になっており、一人ひとりの状態が把握できるので、不足分を補う支援が出来る。水分は飲みやすいものを工夫している。 (外部評価) 運営法人の病院の管理栄養士が献立表を作成し、それに添った材料が届けられる体制となっている。水分量などについては定期的に医師がチェックしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 入居前に健康診断を受けてもらい、感染症の有無を確認している。入居してからは、トイレは塩素系で掃除をしたり、食前のうがい、手洗いの励行、予防接種などで取り組んでいる。インフルエンザ流行時は外出や面会を制限する場合もある。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 使用した食器や調理器具は、その都度消毒乾燥している。まな板・三角コーナー・荒い桶等は毎晩消毒している。食材の検温や調理したものの温度チェックもしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 建物の仕様上玄関がわかり難いこともあり、手作りの看板を掛けてアピールしている。季節ごとの花を植えて家らしさが出る工夫もしている。GHの玄関には靴脱ぎ用の椅子を設置して、子供さんや高齢者の方が安全に出入りする工夫をしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) フローアを、ご家族や職員の家から持ち寄った花や、折り紙で季節感を出して飾り付けしている。浴室はいつも清潔に保ち、トイレには消臭剤を置いて、汚れたらすぐに掃除している。照明の明暗調節やテレビや会話の音量調節なども状況に応じて行っている。 (外部評価) 全体的に広々としており、あちこちにくつろげるコーナーを設け、開放的で気持ちが良い。浴室やトイレは家庭的で清潔に保たれている。廊下をはじめ適切な場所に手摺りが付けられており、安全面での配慮もある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファやベンチを随所に置いて、利用者同士で話し合う空間を確保している。人の気配を感じながらも一人になれるスペースもある。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) たんすや神棚、テレビ等使い慣れたものを持ち込んでいる。氷川きよしのポスターを貼り、毎日氷川きよしのビデオ鑑賞をしている。 (外部評価) 馴染みの家具やテレビ、写真、ポスター、愛用品等が持ち込まれており、利用者それぞれの生活ぶりがうかがえる。入り口には木製の表札がかかっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎日、室温と湿度を計測しており、状況に応じて空調の調節をしている。冬期は加湿器や濡れタオルを利用して乾燥を予防している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下やトイレ、浴室など随所に手すりを設置して安全に移動できるよう配慮している。シルバーカーや車椅子利用の方が増えたので、安全に通れるようにフローアに物を置かない。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) トイレまでの道順に矢印表示をしている。食卓の座席には名前シールや名前の書いたランチョンマットを使用している。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関には花を植えて楽しんでいる。また、ベンチを設置して、日光浴や夏期は花火をしたり、足浴などに利用している。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価)	① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない ケアプランのアセスメントシートをセンター方式に替えたので、その情報収集の際、利用者の生活歴や趣味などを知ることが出来た。利用者がどんな思いで生活したいと思っているのか理解する良い機会となった。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価)	① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない 午前・午後のお茶やおやつの際は、職員と利用者が同じテーブルに座って、話をしながら和やかな時間を過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 起床時間・食事のタイミング・昼寝の場所や時間・テレビのチャンネル・その他全てにおいて、その人のペースで暮らしているし、その人のペースに合わせるケアを提供している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価)	1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 職員は、一人ひとりに関わる時間を多く持って支援している。その時だけは明るい表情になるが、自分たちの力だけで、全ての利用者を生き生きさせてあげることが出来ない。家族の愛情に勝てるものはないことを痛感させられる。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (自己評価)	1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 加齢に伴って足腰が弱くなっているため、外出にはリスクが大きい。行きたい所が行ける場所なら叶えてあげたいが、全員の希望を叶えることは出来ない。しかし、体調と天候を見て出来るだけ戸外へ出ようと努めている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない グループホーム内に看護師が勤務しており、経営母体が病院ということで、日常の健康管理は言うまでもなく、体調不良の場合はすぐに受診が出来る体制にある。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 急変時には近くの施設から応援があるし、状況によって病院受診できるようになっている。職員が手薄になる時は隣のフロアに応援を依頼したり、休みの職員に手伝ってもらえることのできるため、利用者は安心して生活できる。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価)	① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない 面会時に時間を割いて家族と話をするようにしている。その中で情報交換しながら、家族の思いや望みを理解している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価)	1 ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない 近隣に民家がないので、地域の人たちが訪ねて来ることは滅多にない。その代わりに、ケアマネジャーやボランティアの方たち、ふれあい相談員さんが来てくれる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	回数を重ねる毎に、グループホームを理解してもらえた手ごたえを感じているが、地元の方との関係が深まったとは言えない。しかし、我々の姿勢は伝わっているようで、地域の行事などに誘っていただくことがある。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	業務改善を進めながら、働きやすい職場作りを目指している。管理者は、職員からの建設的な意見は出来るだけ取り入れるようにしているし、人間関係でストレスが溜まらないように、話を聞くように心がけている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	「家に帰りたい。」という利用者にとって、グループホームは安住の地ではないと思う。「墓参りに行きたい。」と言っても、骨折して手術した人には無理。本当の満足って何だろうかと考えるが、日々の暮らし方や表情を見ると、大きな不満は感じない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族にとってグループホームは最後の手段ともいべき場所であると思う。家族の介護では限界を感じて入居を決めているので、ここに居てくれる間は、安心して自分たちの暮らしを続けられる。介護サービスに対しても苦情などなく、面会時の会話などからも満足感が伝わる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

「グループホームいしかわ」の特徴は、1番に、階下に保育所があって定期的に交流会を開催していることです。

子供が嫌いなお年よりはいないし、子供たちの素直な明るい笑顔で、ここの利用者様は本当に癒されています。

近隣に民家やスーパーなどがなく、静かな環境の中で、子どもたちの歓声はうれしいものです。

2番目の特徴は、職員がいつも明るく笑顔で仕事をしていることです。

業務はきついことも、辛いこともあります。勤務中はみんな笑顔です。それが利用者様にも伝播して、楽しい雰囲気です。

3番目として、この建物の広さを挙げたいと思います。

家族会では、1フロアだけで、利用者の家族や職員で40人以上になりますが、余裕を持って受け入れることが出来る広さを持っています。

音楽ボランティアの方が来る時は、他の事業所の利用者も受け入れて、大勢で楽しんでいます。

広くて、ゆったりした空間があって、3方がガラス張りのため明るくて、快適な住まいとなっています。

歩行練習や車椅子、シルバーカーにも対応できます。

更に、母体病院との連携がうまくいっていることも重要なポイントになっています。

管理者は自己決定を重視しているため、やりたいことをやりたい時に出来るような支援を、全員で心がけています。